

科目名	リハビリテーション介助論			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	8回	時間数	15時間 (1単位)	配当学年・時期	理学療法士科1年	前期	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
理学療法士として患者様の動作練習を行う際、リスクに配慮した形で介助を行うことがある。そのために必要なポジショニングや体の動かし方を実習を通じて学ぶ。								
〔授業全体の内容の概要〕								
ただ力任せの介助を行うのではなく、理に適った方法論を学ぶ。								
〔講師の実務経験〕								
岡波総合病院、上山病院、けいはん医療生協、昭和病院、日本健康機構株式会社にて、理学療法士として16年間勤務								
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕								
介助と介護の違いを知る。理学療法を行う上で、介助の方法の基礎やリスクについて知る。								
回数	講義内容							
1	理学療法士が行う“介助”とは							
2	力学的視点に基づく介助技術							
3	寝返り動作の介助方法							
4	起き上がり動作の介助方法							
5	立ち上がり動作の介助方法							
6	歩行動作の介助方法							
7	介助技術実践①							
8	介助技術実践②							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
授業時に必要なプリント資料を配布する。								
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】								
筆記試験にて評価する。								